

目的 乳児が、乳汁期より離乳期に移行して、固形食を摂るようになるニとは、乳児にとって、大きな変化であり、乳児の発育に依じた、離乳食が子えられるニとが必要である。その離乳のすすめ方の適、不適は、幼児期の食生活にも、影響を及ぼすと知られる。保育園に乳幼児をあずけている母親は、離乳についてどのような認識をもよ、児の離乳をすすめるのか、その実態を知るために調査を行った。

方法 アンケート調査により、福岡市の東部、中央部、西部に設置されている保育園に、アンケート用紙を配布し、記入法により、調査を行った。

結果 離乳開始時の栄養方法は、人工栄養が55%と最も多く、混合栄養31%、母乳栄養は13%である。離乳開始の月令は、4ヶ月に開始したものが38%で最も多く、5ヶ月で開始したものが29%、6ヶ月及び7ヶ月が15%で、5ヶ月迄に80%以上が離乳を開始している。又離乳開始をきめる手がかりをみると、39%の母親は、自己の判断により開始しており、ついで、保育園の保母、保健所の指導により、離乳を開始している。自己の判断により開始した母親についてみると、その手がかりとして、何らかの育児者を利用してゐる。

勿く母親にとって、保育園の保母は、離乳をすすめる際の相談者となっており、保母の離乳に果たす役割は、大きいと思われる。